

食料・農業・農村政策審議会 企画部会茶関係資料（抜粋）

品目ごとの進捗状況、課題と対応方向について（茶）

令和元年11月12日企画部会

資料1-2 食料自給率及び食料自給力の検証（参考資料）

1 進捗状況

（単位：万トン、kg/年・人）

	H25 [基準]	H26	H27	H28	H29	H30	R7 [目標]
生産量	8.5	8.4	8.0	8.0	8.2	8.6	9.5
国内消費仕向量	8.7	8.4	7.9	8.0	8.1	8.6	8.5
1人1年当たり 消費量	0.68	0.66	0.62	0.63	0.64	0.68	0.70

2 1世帯当たりのリーフ茶消費量

（単位：g）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
1世帯当たりの リーフ茶消費量	874	892	843	849	850	798

3 緑茶の輸出実績

（単位：トン、億円）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
輸出量	2,942	3,516	4,127	4,108	4,642	5,102
輸出額	66	78	101	116	144	153

（参考1）

（単位：kg/10a、万ha）

	H25 [基準]	H26	H27	H28	H29	H30	R7 [目標]
単収	187	187	181	186	193	208	200
作付面積	4.5	4.5	4.4	4.3	4.2	4.2	4.7

現行計画上の
克服すべき課題

- 輸出拡大や新たな茶商品など国内外のマーケットの拡大
- 茶樹の若返りや競争力のある品種への転換、摘採期の分散化のための改植の促進
- 燃油価格の影響を受けにくい省エネ型の生産体制への転換

消費・
生産の
動向と
課題

1 需要の動向

ア) 国内需要については、消費者需要に対応した優良品種への改植・新植や新たな需要創出に向けた商品開発等の推進により、国民1人当たりの消費量はR7目標と同程度。ただし、人口減少、食の簡便化志向によるリーフ茶需要の減少により、国内全体の需要は減少傾向の見通し。

イ) 海外需要については、和食ブームや健康志向の高まりにより、緑茶の輸出量が増加。特に抹茶は、飲料だけでなくスイーツ等の原料としても需要が高い。

2 生産の動向

ア) 作付面積については、H26年度から新植に対する支援を開始したものの、生産者の高齢化や茶の価格の低迷により、農家の生産意欲が低下し、中山間地の小規模茶園を中心に減少傾向。

イ) 単収については、優良品種への改植に伴う未収益期間の支援等により効率的な生産体制の構築を推進した結果、H30年度は最大となった（208kg/10a）。近年の飲料原料用需要の高まりを受け、秋冬番の生産量が増加していることも寄与。

ウ) 茶の販売農家は年々減少し高齢化が進展する中で、担い手への農地集積が進み、乗用型機械の導入、早生・晩生品種の導入による摘採期の分散等により生産性が向上した結果、規模拡大が進み、栽培面積が200haを超える販売農家も出現。

対応方
向

1 国内需要拡大のため、産地の生産・流通・消費の関係者が連携し、外部の専門家等の多様な人材を活用しつつ、高品質な茶、特色のある茶や、簡便に飲める茶など、多様な消費者ニーズに応える栽培方法、消費形態を確立。

2 海外需要拡大のため、緑茶のプロモーションを行うとともに、海外需要に応じた抹茶や有機茶等の生産、米国・EUにおける残留農薬基準設定を推進。また、インバウンド需要拡大のため、緑茶のPRや茶の体験活動等の充実を図る。

3 安価な加工原料用への仕向けを念頭にいた更なる効率的な栽培を拡大するため、平地において、無人乗用型機械や圃場センシング等のスマート農業技術を活用しながら飛躍的な省力化・効率化を図る。